

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2023

Autumn



ピースボート

40周年の軌跡

since 1983

PEACE BOAT 40th Anniversary

船旅を通じた 人と人のつながりを

ピースボートクルーズは、1983年に出発した第1回クルーズからこれまで100回を超える旅に出ています。好奇心と行動力に満ちた、のべ8万人の老若男女がアジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、南太平洋など世界250以上の港を訪問。各地の世界遺産や大自然を訪れ、さまざまな文化にふれ、そこに暮らす人々と交流を行ってきました。船旅には人と人とがつながる「場」が多くあります。ピースボートはその「出会いの場」「学ぶ場」「行動できる場」を大切に、これからも船旅を続けます。

PEACE BOAT 40th Anniversary



GLOBAL VOYAGE
2023 Autumn

CONTENTS

船旅を通じた 人と人のつながりを…………… P3

- ピースボート40年の歩み
1983年～2001年…………… P4
- 2002年～2012年…………… P6
- 2013年～2023年…………… P8

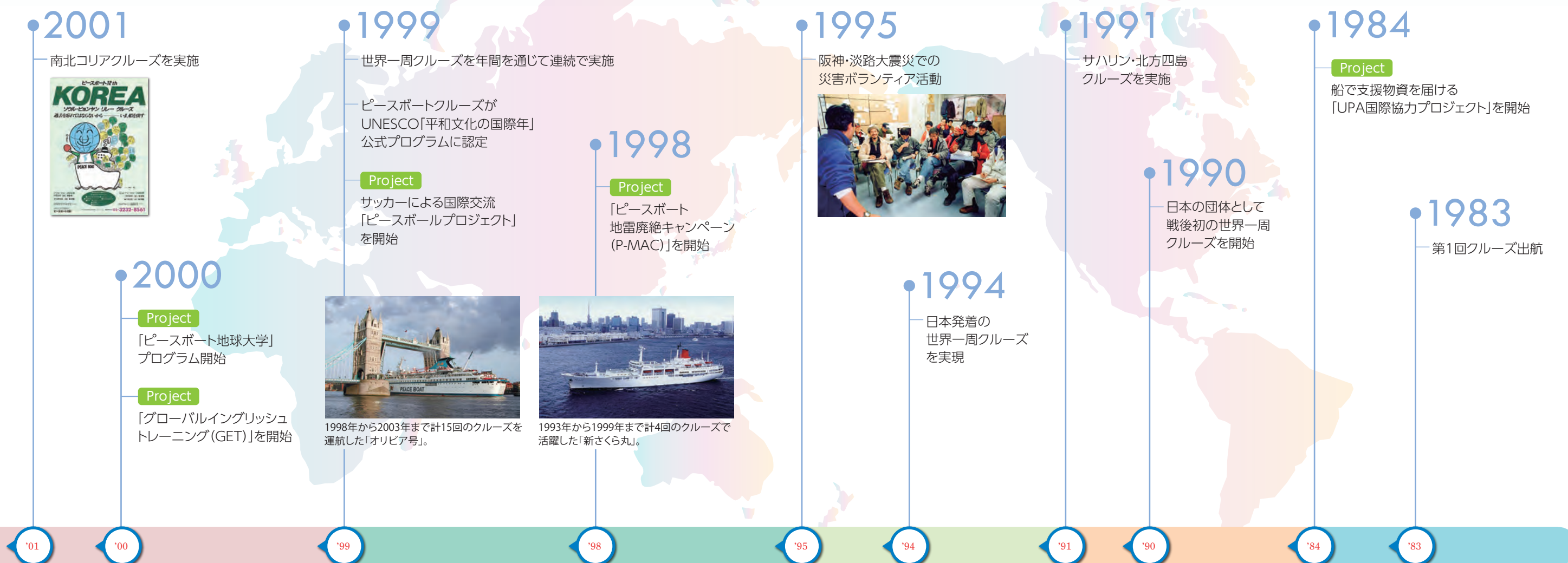
ピースボートと歩んだ 40年を振り返る…………… P10

世界から寄せられる ピースボートへのエール…………… P12

アンバサダーが語る ピースボートクルーズの魅力…………… P14

ピースボートスタッフがつなぐバトン だから私たちは船を出す…………… P16

40年間に訪れた数々の寄港地…………… P18

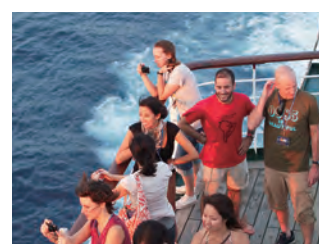


PEACE BOAT PROJECT



地球大学

寄港地での現場体験と洋上ゼミで、国際社会への理解を深めグローバルな視点を身につける洋上プログラム。



グローバルイングリッシュ トレーニング (GET)

洋上と寄港地で実践トレーニングを行う体験型洋上英会話プログラム。



ピースボールプロジェクト

日本で使われなくなったサッカーボールを世界中の子どもたちに届け、国境を越えたつながりを築く。



地雷廃絶キャンペーン (P-MAC)

地雷撤去を行っている政府機関や NGOとともに、除去活動や被害者の社会復帰を支援する。



UPA国際協力プロジェクト

大型客船の特性を最大限に活かして世界各地へさまざまな支援物資を届ける。

ピースボート40年の歩み

ピースボートは「みんなが主役で船を出す」を合言葉に、船旅で世界を巡りながら、現地で交流を図ることを目的にスタートしました。その初期から、世界の人々と語りあいながら社会や地球が抱える問題に向き合ってきたことも大きな特徴です。40年の歩みにおいて、平和や人権をはじめ地域紛争や核問題、環境問題などにおいてまさに地球規模での活動を展開してきました。また国連の特別協議資格をもつ国際NGOとして、国連への報告、提言なども行っています。これからもピースボートは国と国との利害関係とは異なる、草の根のつながりを創り、地球市民として平和の文化を築いていきます。



PEACE BOAT HISTORY

1983-2001

2012

パシフィコ横浜にて
「脱原発世界会議」
を開催



2011

宮城県石巻市を中心に
東日本大震災の
災害ボランティア活動を開始

Project
「ピースボート災害支援センター
(PBV)」設立

Project
「福島子どもプロジェクト」を開始



2009年から2012年までクルーズを
運航した「オセアニック号」。

2010

Project
洋上フリースクール
「グローバルスクール」
を開始

2009

Project
洋上モンテッソーリ保育園
「ピースボート子どもの家」
を開始



2003年から2008年まで地球を17周した
「トパース号」。

2008

幕張メッセにて
「9条世界会議」を開催



Project
「ヒバクシャ地球一周 証言の航海
(おりづるプロジェクト)」を開始

2007

「旅と平和」エッセイ大賞を開始

Project
「ガラパゴスの森再生プロジェクト」を開始

Project
ベネズエラ音楽教育
「エル・システムとの共同キャンペーン」
を開始

2005

国連本部で開催された
GPPAC世界会議に参加

Project
初の日韓共催クルーズ
「PEACE&GREEN BOAT」
を実現

2004

インド寄港時に
「世界社会フォーラム (WSF)」参加

2002

国連経済社会理事会
(ECOSOC)の
特別協議資格を取得

PEACE BOAT PROJECT



福島子どもプロジェクト

福島第一原発事故の影響を受けた
子どもたちに「夢と健康を」と願い、
保養、船上での国際交流体験、滞
在型の環境学習などを提供する。



ピースボート 災害支援センター (PBV)

東日本大震災をきっかけに設立。多数
のボランティアとともに人こそがで
きる支援、災害ボランティアを展開する。



グローバルスクール

「ヒトと同じ」であることが求められる
日本社会から「ヒトは違って当たり前」
の地球社会へ飛び出す、新しい
カタチの洋上フリースクール。



ピースボート子どもの家

差別心も先入観もない子ども時代
に世界に出会う体験を重ねる。地球
一周を通して親子で共に学ぶ体験が
できる、洋上モンテッソーリ保育園。



ヒバクシャ地球一周 証言の 航海(おりづるプロジェクト)

広島・長崎の被爆者の方々が、世界
各地で原爆被害の証言を行い、核兵
器廃絶のメッセージを発信する。



エルシステマとの共同 キャンペーン

ベネズエラの音楽教育「エルシス
テマ」。楽器支援とともに、オーケス
トラメンバーをクルーズに招き、コン
サートを行っている。



ガラパゴスの森再生 プロジェクト

現地の「チャールズ・ダーウィン財
団」と共同でガラパゴスの固有種「ス
カレシア」の植林を行っている。



日韓共催クルーズ PEACE & GREEN BOAT

韓国のNPO「環境財団」と共同で
コーディネートするクルーズ。日韓双
方の参加者がともにアジアをめぐる。

PEACE BOAT HISTORY

2002-2012

2023

コロナ禍を乗り越え
ピースボート史上
最大の客船
「パシフィック・ワールド号」が出航



2021

世界的な平和団体
「ワールド・ビヨンド・ウォー」より
「戦争廃絶への
団体特別功労賞2021」を受賞



2012年から2020年まで活躍した
「オーシャンドリーム号」。

2019

ニューヨーク寄港時に船上で
「世界海洋デー」を記念する
国連公式イベントを開催



2018

第100回記念
世界一周
クルーズを実施

2017

ピースボートが運営団体を務める
「核兵器廃絶国際キャンペーン
(ICAN)」がノーベル平和賞を受賞



2016

Project
ピースボートクルーズが
国連の「SDGs (持続可能な開発目標)」
公式キャンペーン船として認定

これまでのP-MACの活動が評価され、
「カンボジア王国友好勲章」を受章



2014

ブラジルW杯にあわせ
「ストリートチルドレンに
サッカー場を!」
キャンペーンを実施



2013

世界最大規模の旅行博
ワールドトラベル
マーケット (WTM) で
「平和大使賞」を受賞

韓国・環境財団から
「グリーンプラネット・
アワード」を受賞

2015

脱炭素クルーズを目指す
新造船「エコシップ
プロジェクト」を発表



PEACE BOAT HISTORY 2013-2023



PACIFIC WORLD

PEACE BOAT PROJECT



ウクライナ人道支援

ピースボートの国際的ネットワークを
通じてウクライナへ人道支援を開始。
ルーマニア等に拠点を置くNGOらと
協働し支援に取り組む。



SDGs (持続可能な開発目標) 公式キャンペーン船

国連とともに持続可能な開発目標
「SDGs」の達成を目指し、地球規模の
課題に理解を深める活動を行う。

ピースボート、 コロナ禍を越えて

およそ3年に渡るコロナ禍を経て、今年4月にピースボートクルーズは再び世界一周の旅を再開。また同時にピースボートは40周年を迎え、節目の年が新たなスタートとなりました。共同代表 吉岡達也とクルーズディレクターの田村美和子にコロナ禍を乗り越えたピースボートとそこから再認識した世界一周の旅の価値について語ってもらいました。



ピースボート共同代表

吉岡 達也

YOSHIOKA Tatsuya

ピースボート創設メンバーで共同代表。ピース&グリーンボートの共同代表、また紛争予防国際ネットワーク「GPPAC」理事長も務める。

クルーズディレクター

田村 美和子

TAMURA Miwako

2004年よりクルーズスタッフとして乗船。2010年よりクルーズディレクターに就任。エンターテイナーとして洋上カルチャースクールのサルサダンス講師の一面も持つ。

ピースボート40周年を 振り返っていかがですか

吉岡…学生のようにピースボートをスタートさせましたが、若かったし勢いで始めたようなところもありました。40年続けられるとは思っていませんでしたね。ですから、今まで乗船していただいた方をはじめピースボート

トに関わってくださったすべての方に感謝しかありません。

改めてピースボート設立の 経緯を教えてください

吉岡…当時は東西冷戦の時代で、世界が二つにわかれてしまっているような状況でしたが、東も西も関係なく世界中仲良くすべきだと考えて、現

地へ行って国際交流を図ろうという気持ちがありましたね。

40年の間で最も苦労した ことを教えてください

吉岡…それは、やはり、コロナですね。これまでもアメリカ同時多発テロ、SARSの拡大、阪神・淡路大震災、東日本大震災など、船を出せない危機

奇しくもコロナ禍の3年を経て ピースボートは40周年を迎え ましたが、この3年間でどの ようなことを考えましたか



は何度かありましたが、コロナ禍はその最たるものでした。出航させることができれば私たちの活動は止まりませんから、それが長く続いたので非常に厳しかったです。

吉岡…クラウドファンディングで多大な寄附をいただいたり、世界各地から多くのメッセージをいただいたり、改めてピースボートがたくさんの方に支えられて成立していることを感じました。またピースボートには旅行業というものを超えた意味があることをすごく考えさせられました。

田村…この3年間、ピースボートのスタッフは出航できず、活動できないなか、

自分たちの存在意義に自信を失いかけていた部分もありました。しかし今、吉岡が言った通り、本当に多くの励ましをいただきました。「ピースボートに乗りたいたから絶対負けないで」「必ずまた船を出して」といった応援が私たちの大きな支えになりました。

今年4月、3年ぶりに ピースボートクルーズが 出航しました。なにか エピソードはありますか

田村…クルーズディレクターを務めましたが出航時、今までになかったことです。皆さんから「おめでとーう！」という挨拶をいただきました。乗船したお客さまからも、見送りにきた方々から「おめでとーう」をいただきました。ピースボートの出航は、み

んなから祝福されるものなんだと実感しましたね。

吉岡…先週、ニューヨークに寄港したときも「Congratulation!」でしたよ。コロナ禍を生き延びて、多くの方から「Welcome back to New York」と祝福されました。私が思うに、ピースボートが40年続いたことにもつながりますが、世界一周の魅力というか、夢の力はものすごく大きくて、普通の旅行をやっていたらピースボートはたぶん生き残れなかったのではないかと思います。次のピースボートクルーズに乗船しようと思っている皆さんもそうだと思いますが、コロナ禍にあっても夢を実現する出航の日を待とう、という思いが強くあるんです。世界一周のもっているパワーに私たちは生かされているんだという気がします。

再開後のVoyage114 クルーズはいかがでしたか

田村…一番はパシフィック・ワールド号という新しいチャーター船ですね。とにかくすべてにおいてハイグレードです。もちろん初めて使用する船で、3年ぶりの出航ということもあり



大変なこともありましたがお客さまにもご理解いただいで、スタッフも精一杯頑張つて、みんなが一体となったクルーズで、大きな達成感を味わうことができました。

吉岡…パシフィック・ワールド号の評判は最高でした。私自身もこれまでで最高の船だと思います。

田村…大きくてゴージャスで設備も最高です。ご提供する食事やイベントなどは敢えてこれまでと変えない部分が多かった。それはお客さまから「ピースボートらしさを変えてほしく

ない」という声をいただいていたからです。つまりピースボートの大きな特徴の「人と人がつながれる空間である」という部分は変わりなく引き継いでいるということです。

吉岡…アジア各国のお客さまも増えていて、皆さん日本人、日本文化が大好きなのですぐに友人になれますよ。平和友好の船、といった雰囲気もあります。アジアの方々と交流を深めながら世界一周する意味合いも大きいと思います。

最後にこれから乗船される方々へ メッセージをお願いします

田村…皆さんと船でお会いできることを何より楽しみにしています。船での出会いは特別感があります。それを体感していただきたいので、その日をスタッフ一同心待ちにしています。

吉岡…世界一周という夢の実現をぜひ成し遂げていただきたい。そのために私たちは全力でサポートします。私の両親もそうでしたが、元気なときに乗って最大限楽しんで、最高の思い出をつくるのがベストだと思います。ご乗船をお待ちしています。🚢



ブルー・バナー代表、
元モンゴル国連大使

J.エンクサイハン

J. Enkhsaikhan

ピースボートは過去40年の間に100回を超える「平和の航海」を企画し、双方向の教育プログラムやアドボカシー・プログラムを盛り込んだ平和支援活動を行ってきました。草の根レベルで、人と人との絆を強め、SDGsを推進し、世界中で平和と正義の基盤を強化する社会的変革に貢献しています。このような理由から、私はピースボートを本年のノーベル平和賞に推薦しました。残念ながら今回受賞には至りませんでしたが、推薦には数々の厳しい基準があるため、ノミネート自体にとても価値があります。平和とは戦争がないことだけではありません。ピースボートの崇高な目標達成に向けた「平和の航海」のさらなる成功を祈念いたします。



駐日ナミビア大使

モーヴェン・マスノ・ルスウェニョ

H.E. Morven M. Luswenyo

ピースボート40周年のお祝いに参加でき大変嬉しく思います。全世界に平和が訪れますように。



元エルサルバドル国連大使

ルベン・アルマンド・エスカランテ・ハスブン

Rubén Armando Escalante Hasbún

ピースボートは私の人生を変えました。日本と世界から集まった仲間たちと共に働くことで、自分が成長し、世界に影響を与えられることを知りました。観光客としてではなく、常に学び変化し、自分の足跡を意識するようになりました。ピースボートから得た価値観は、今に至るまでの私の世界の見方や起こす行動を形作る、大切なものです。これほど幸運なことはありません。



駐日ジャマイカ大使

ショーナ・ケイ・M.リチャーズ

H.E. Shorna-Kay M. Richards

7つの海を越える強いグローバル・パートナーシップを築いてきたピースボートの長年の活動を称えます。ピースボートは多くの人々に希望とインスピレーションを与えてきました。同時に、人と人との強いつながりが生まれる場所であり続けています。こうした絆が、人、地球、繁栄、そして平和にむけて育まれ続けていることに勇気づけられます。



駐日ウクライナ大使

セルギー・コルスンスキー

H.E. Sergiy Korsunsky

残念ながら今はウクライナの港オデーサに寄港できませんが、戦争が終わった暁には、あの美しい港に必ず戻って、皆さんの目でその美しさを見てください。今のウクライナにとっては世界のサポートを感じることがとても大切です。ウクライナの若者が乗船する来年のプログラムや支援に感謝を申し上げます。



国連事務次長
(グローバル・コミュニケーション担当)

メリッサ・フレミング

Melissa Fleming

ピースボートは40年にわたり、80カ国以上、250の港を訪れ、平和で住みやすい地球の実現を絶え間なく推進してきました。そして今週は「核兵器廃絶国際デー」です。(2023年9月NY寄港時)アントニオ・グテーレス国連事務総長が発した明快なメッセージは「核兵器の使用を防ぐ唯一の方法は、核兵器を廃絶すること」です。これは、広島と長崎で生き残った被爆者の方々の時代を超えたメッセージでもあります。グテーレス事務総長は、彼らに対して、そして世界に対して、大量破壊兵器を地球上から消し去るために全力を尽くすことを誓いました。ピースボートも、このメッセージを世界に伝えてくれていることに感謝します。ピースボートとのコラボレーションを誇りに思います。私たち全員の力が必要です!



ヒバクシャを代表して、サーロー節子さんが国連総会でスピーチ。(2009年10月おくりづるプロジェクト第1回開催時)



2017年ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)。ピースボートはICANの国際運営団体を務める。

世界から寄せられる ピースボートへの エール

地球市民として活動しているピースボートは世界中にネットワークを広げ、これまでのクルーズでもさまざまな分野の専門家、著名人が水先案内人やゲストとして乗船しています。また、世界各地で社会問題に対する活動を通して交流を深めてきました。ピースボートの友人として、ともに歩んできた方々より、40周年を祝うエールが届きました。

Happy 40th Anniversary



韓国
環境財団理事長

チェ・ヨル

Choi Yul

環境財団とピースボートが絆を結んで約20年が経ちます。コロナで大変な時期もありましたが、その後の日韓関係のように絆を結んだ参加者たちがますます発展し、世界的に環境と平和を代表する活動になる事を願っています。これからも今より環境に優しいクルーズを工夫し、持続可能な地球のため環境運動に力を尽くします。



駐日東ティモール大使

イリディオ・シメネス・ダ・コスタ

H.E. Ildio Ximenes da Costa

ピースボートは国民投票の後、2002年に東ティモールの首都ディリに初めて寄港した国際クルーズ船です。ピースボートが再度寄港する2018年までパートナーシップは続き、その際は東ティモールの学生がピースボートに乗船しました。これからも継続的に東ティモールに来てください。この地域の平和と繁栄を共に促進しましょう。



駐日ギリシャ大使

ディミトリオス・カラミツオス・ジラス

H.E. Dimitrios Caramitsos-Tziras

ピースボート40周年の式典に参加できて光栄です。ギリシャはピースボートの取り組みを支持し、称えるとともに、ピースボートがこれからもギリシャに寄港することを楽しみにしています。

クルーズが生きる希望になりました。
下船後もワクワクして生きています。



●加藤 民雄さん
(北海道在住)



私は58歳のときに前立腺がんが見つかりステージ2と診断されました。術後も再発のことを考えふさぎ込んでいたときに、ピースボートのことを思い出し「夢だった世界一周に行って後悔のないようにしよう」と決意したのです。大型船でのクルーズは体の負担も少なく安心です。乗船後はいろいろなことにチャレンジし、船旅を心底満喫しました。船内でできた多くの友人のおかげもあり、クルーズも終盤になると「ああもう終わりか」と寂しい気持ちになりました。

ピースボートクルーズでは、これまでに経験したことのないような大きな感動や忘れられない体験をたくさん味わえます。病に負けずがんばった私へのごほうびとして、「夢は実現できる」という実感と「これからの人生の希望」をピースボートからもらったような気がします。

ピースボートにはクルーズで世界に飛び出した体験によって、より豊かな人生の扉を開けた方々にクルーズアンバサダー（地球一周の船旅大使）をお願いしています。各地のピースボートセンターや説明会などにおいてその体験をお伝えしていますが、今号では誌上公開でピースボートクルーズの魅力を紹介します。



アンバサダーが語る

ピースボートクルーズの魅力

40周年おめでとうございます。
二度目の青春をありがとう！

●土居 タヅ子さん
(福岡県在住)



ピースボートクルーズの魅力はいちばん感じているのは、船内生活の充実度です。カルチャースクールが多く、自由に気軽に参加できるので友人も大勢できました。また、フリースペースがたくさんあるのでどこでもほかの乗船者の方と交流ができます。私はほかの客船にも乗船していますが、そういう自由度、乗船者の交流というのはピースボートだけですね。夜になると船内の居酒屋やバーに集まって、みんなで賑やかに過ごすのも楽しみのひとつです。

船に乗ることで、人生二度目三度目の青春を謳歌できると思います。下船後もずっと続く旅仲間とのつながりは、かけがえのない宝物となります。これから乗られる方は、まだ見ぬ出会いに心ときめかせながら出航の日を迎えてみてください。



文化体験 歴史
発見 見聞 夢 知る 平和 フレンドリー 交流 学び 友人 変わる
参加 大自然 風光明媚 希望 感動 癒し
醍醐味 始める
きっかけ グルメ 寛ぐ
参加 大自然 風光明媚 希望 感動 癒し
醍醐味 始める
きっかけ グルメ 寛ぐ
参加 大自然 風光明媚 希望 感動 癒し
醍醐味 始める

人生が大きく変わる旅。これからも
そんな「場」を提供し続けてください。



●中山 広子さん
(佐賀県在住)



私は長く勤めた小学校の教諭を退職し、船で世界一周することが長年の夢でした。その夢の実現の途中で見た、マチュピチュ遺跡、ノルウェーのフィヨルド、ギリシャのサントリーニ島などは特に印象深く記憶に残っています。船内でのプログラムやイベントなどがとても充実していて、多くの学びと体験がありました。また、広島・長崎の被爆者の方が乗船されていたことがきっかけで、ピースガイドの資格を取得し、地道ながら今でもピースガイドの活動を続けています。

出発を迎える日までには、世界の情勢から家族の反対までさまざまな困難が発生するかもしれません。しかし何より「夢の世界一周」ですから、ギリギリまで諦めずに夢を実現させてください。私自身がそうだったように、その後の人生が大きく変わる、そんな出会いと体験が待っていますよ。

これからも世界の広さと豊かさを
発信してってください。また乗船します！



●與那覇 強さん
(沖縄県在住)



ピースボートクルーズは、船旅のゆったりとした魅力、スタッフのきめ細かいサポート、そして普通の観光旅行では体験できないさまざまな学習とイベントが素晴らしかったです。そこに参加する皆さんでつくりあげていく船旅、それこそがピースボートだと思います。非日常のなかで自分を見つめ直し、視野を広げて海外の人たちとも交流ができる旅はやっぱり最高ですね。

昔と違い今はインターネットをはじめ日本にいても情報がすぐに手に入る時代となりました。でも逆にそんな時代だからこそ、実際に現地を訪れて、自分の目で見て触れて体験する。そんな経験を重ねることで、毎日に張りが出てくると思います。



河合 由実

KAWAI Yumi

初乗船は21歳。Voyage114クルーズにスタッフとして乗船。「ウクライナ支援のための洋上募金に5日間で多額の寄付が集まり感動しました」。

世界を旅することで 世界を変えていく

ピースボートは私の大好きな場所。世界一周の旅から、こんな面白い人がいる、こんな素晴らしい文化がある、知らなかった世界の現実がある、ということを知ってほしいです。私はピースボートに出会ったからアウシュビッツにも行き、カンボジアの地雷除去の活動もしています。自分にとってかけがえのない経験をもたらししてくれる魅力的な場所です。また社会問題に対して、一人ではできないことも、組織として考えて、取り組みを始められることにも感動します。世界を旅することで、世界を変えていく。それがピースボートです。



尾形 康仁

OGATA Yasuhito

初乗船は20歳。「世界一周の旅では、多くの人と出会うことができ、外国の友人もできます。草の根の国際交流の素晴らしさ、大切さを実感できます」。

スタッフ、乗船者みんなの想いを つないでいきたい

高校を卒業後、社会に馴染めず引きこもっていた自分を変えるきっかけにしたいとピースボートに乗船しました。悩んでいたことの小ささと世界の大きさを知り、自分の可能性にも気づきました。その後、悩みをもった若い人に気づきの機会をつくるために活動してきました。コロナ禍は最も厳しい3年間でしたが、これまで乗船した方など多くの人々の支え、協力を実感しました。今、船を出せているのはスタッフだけではなく、みんなの力によるものです。ピースボートに寄せられる多くの想い、そのバトンをつないでいきたいです。



ピースボートスタッフがつなぐバトン

～だから私たちは船を出す～

ピースボートには大きな情熱と愛情をもってクルーズを支えているスタッフが大勢います。彼ら自身、現在もピースボートクルーズから学び、成長し続けています。ピースボートスタッフに「なぜ船を出すのか」「船を出す意味」についてメッセージをもらいました。



Louise Soerensen

ルイース・ソレンセン

初乗船は31歳。現在は水先案内人のコーディネイトを担当。「参加者が交流でき学べるセッションをつくっていきたいと思っています」。

世界の人たちと交流しながら 平和をつくっていく

10年前に乗船したとき船内でデンマーク人は私一人、日本人以外の外国のお客さまもそう多くはありませんでした。この10年でとてもグローバルになり、より魅力的になりました。ピースボートは平和を謳っていますが、世界の人々と話し合い、意見交換し平和について考えることができるので、とても良い傾向だと感じています。洋上での時間はとても素晴らしいもので、そこで交流しコミュニティが生まれることがこのクルーズの特徴の一つでしょう。寄港地では交流ツアーやスタディツアーに参加して世界を見てほしいと思います。



张 梓昕

ZHANG Zixin

初乗船は24歳。日・中の通訳として乗船。「国際交流がほかのクルーズにはないピースボートの魅力。今後もお客さま参加型の企画を考えていきたい」。

国籍を超えともに生活することで 互いにわかりあえる空間になる

ピースボートクルーズには日本人をはじめ中国大陸、台湾、シンガポール、韓国などアジアのお客さまも多く乗船します。国籍を超えて、同じ船の上でともに生活し交流できるのが一番の魅力です。それまでわかりあえていなかったことも、実際に顔を合わせて話し合うことで理解できる。私自身も経験しているし、異なる国の人同士がコミュニケーションを深めているシーンを何度も目にしています。寄港地での経験も素晴らしいものですが、参加者同士がともに取り組む船内企画、イベントにぜひ参加してください。



木村 希望

KIMURA Nozomi

初乗船は28歳。Voyage116クルーズの水先案内人担当としてさまざまな企画を立案中。「素晴らしいゲストを大勢呼びますので、乞うご期待!」。

悲しみを希望に変える、 そのために私たちは船を出す

初乗船は南半球航路でした。そこでニュースにはならないけれど酷い環境破壊や社会問題を目の当たりにして衝撃を受けて、絶望もしました。しかし乗船していた水先案内人をはじめ多くの人が、そういう状況を解決するために拳を振り上げ活動をしていることを知り、勇気もらい希望をもつことができました。それはその後の乗船体験でも変わることはありません。世界一周の旅で多くの現実にあふれ、その度に考え、語りあう。多くの仲間と共に地球の問題に対してアクションを起こす。そのために私たちは船を出し続けるのです。



鈴木 隆之

SUZUKI Takayuki

初乗船は21歳。Voyage117クルーズでクルーズディレクターを務める予定。「大きなプロジェクトも予定されているのでぜひ楽しみにしてください」。

ピースボートの旅は 人生を決める旅になる

私は初めての乗船でエジプトに寄港したとき若者が物乞いしている姿を見て衝撃を受けました。どういう対応をすべきか全くわかりませんでした。ほかにも多くの出会いや体験から今まで自分がどれだけ小さなコミュニティのなかでしか生きてこなかったかを痛感し、また自分の無知さを知りました。ピースボートの旅は自分が知らなかったことを知り、見たことがなかった世界にふれる体験の連続です。自分もそうでしたが、人生の岐路になったり、生き方や考え方を変えたりする旅になるはずです。



船旅を通じた 人と人のつながりを

初航海から40年、
100回以上にわたり船を出してきました。
世界中の250を超える港をめぐりました。
のべ8万人以上が世界に旅立ちました。
時代が変わってもピースボートが目指すものは変わりません。
船旅を通じて、人と人とのつながりをつくりたい—
地球を旅するピースボートの大航海はこれからも続きます。



Voyages of PEACE BOAT

Connections between people

●40年間で訪れた世界の寄港地



船上百景 [航跡]



水平線から白い道が走っているように見える後方デッキからの航跡。

そのときどきで表情を変える
航跡の美しさを心に刻む

寄せてはかえす潮の路
はるかに別れの詩を聞く
消えては浮かぶ面影が
出会いのみにとゆれている

これは「潮の路（みち）」という歌の歌詞の一部で、潮の路とは船が通った跡に残る白い波（航跡）のことだ。船上では、進行方向が見える前方デッキが人気だが、何もない大海原に一本の白い路が見える後方デッキもおすすめだ。特に夕暮れ時や、鏡の上に幻想的な波模様を描くような風の日には、ぜひデッキに出てその一期一会の景色を堪能してもらいたい。また、航跡がつくりだす波に反射することでゆれながら輝く月光もとても神秘的だ。そんな寄せてはかえす潮の路を眺めながら人生の来し方を振り返る船旅は、なんとも贅沢な時間となることだろう。



船上から見る夕日の美しさは息を呑むほどだ。



デッキに出て頭をカラにして海原を眺める贅沢な時間。



ピースボートクルーズの初めての船出は今から40年前の1983年9月でした。同じく40周年という、同年4月に開園した東京ディズニーランドがあります。40年という長い年月を継続するためには、何よりもファンの存在が欠かせません。ピースボートにも世界中にファンがいます。設立メンバーが「最大の危機だった」と振り返るコロナ禍も、国内外で応援し続けてくださった方々がいたからこそ乗り越えることができました。

クルーズの再開後、世界中の港で「おかえり！」と出迎えてくれた人々、再開を待ち続けてくださったお客様、そして絶対にこの船を出し続けると諦めずに困難に立ち向かったスタッフと、まさに人の力を原動力としてまた船は動きはじめたのだと感じています。

いま世界中で航海しているあまたのクルーズ船のなかでも、ピースボートは人と人が出会う「場」を特に大切にしている船旅だと思います。この40年間変わらずに取り組んできたことは、人々が世界中に友だちをつくり、互いに理解を深め信頼を築くこと。

コロナ禍はもとより、最近の不安定な世界情勢のなかでピースボートが再開に至った意味は何なのか、それをかみしめながらこれからも人と人をつなぐ船旅を続けてまいります。(M・H)